地域おこし協力隊　活動報告書

令和3年度（2021.4.1～2022.3.31）

担当：中心市街地活性化
勤務：まちづくり臼杵（サーラ・デ・うすき）

協力隊2年目　林　佑太郎

コンテンツ

- アクターズクリニック臼杵サテライト（演技学校）
- アクターズクリニック臼杵サテライト舞台公演-うすき竹宵-
- コミュニケーションプログラム
- 劇団ムジカ旗揚げ公演
- まとめ

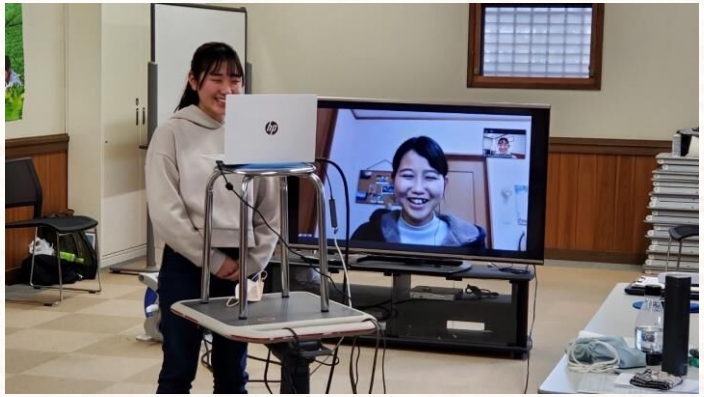
アクターズクリニック臼杵サテライト（演技学校）

クラス/年度	2020年	2021年	2022年
キッズ	０人	０人	０人
レギュラー	２人	８人	８人
エルダー	２人	２人	２人

卒業した受講生もいるため、数字としては横ばいだが、新規受講生は獲得している。

アクターズクリニック代表を務める梶原涼晴隊員（文化芸術振興）が臼杵サテライトを創設し、私、林が本校の講師を務める。“質の高い臼杵産俳優“を育て、人材育成を進めるとともに、芸術による町おこしによって臼杵のまちと人に活気を与え、中心市街地の活性化を図る。
また、演劇というアプローチで臼杵から世界へ継続的に芸術を発信していくことで文化芸術の振興を図り、最終的には臼杵に芸術を根付かせるべく活動中。

レッスンスタジオ：サーラ・デ・うすき　つまみキッチン



コロナ禍の対応として、受講生がいつでも対面・リモートを選択できるような環境をつくっている。

第2回アクターズクリニック臼杵サテライト舞台公演
-うすき竹宵公演-
「TAKEYOI ANOTHER STORY～24年目のうすき竹宵～」

受講生４名に加え、現役の臼杵市役所職員（安達さん）も出演！
第一回の視聴者数・視聴回数を大きく上回る結果となり、うすき竹宵を舞台からのアプローチで賑わせることができた。

うすき竹宵実行委員会公認のもと、臼杵サテライトによるオリジナル舞台公演を実施。去年が第一回で、今年で２回目となる。観劇無料。コロナ禍を考慮し去年同様、臼杵ケーブルネット・うすきチャンネルによるリモート生配信で提供した。

臼杵の地で演技を学んだ俳優たちが、臼杵の地で舞台を披露することで、俳優たちの成長に繋げるとともに、芸術が身近にある環境をつくる。また、本公演の恒例化は、臼杵に演劇を根付かせるための大きな可能性を秘めていると考えており、その実現に向け動いている。

YouTube「うすきチャンネル　舞台」を検索でご覧になれます！

コミュニケーションプログラム

「演技を通じて、今、できることを。～子ども達に明るい未来を～」

【概要】

人間力を育てるプログラム。俳優に必要なスキルが身に付く“シアターゲーム”を活用し、子ども達の想像力や自主性、コミュニケーション能力の向上を図る。また、“コロナ禍による身心の乱れを防ぐ”というのも大事な方針の一つとしている。

【内容】

- 所要時間：45分
- 頻度：月に一回
- 定員10～20人（児童が多い施設に関してはクラスを分けて実施）
- 日程（それぞれの施設と要相談。）
- 内容　シアターゲーム（あなたわたし、しりとり、連想、即興、等）
- 対象　小学生（コミュニケーションが取れるレベルであれば参加可能）

【活動実績】

- オンラインレッスン
  海辺こども園、すえひろ児童クラブ

- 対面レッスン
  福良ヶ丘児童クラブ、市浜児童クラブ

【今後の展開】

小・中・高校の教育機関への進出・展開を目標としている。教育委員会の公認を得られるように、臼杵モデルを構築し、実績をつくっていく。

今、我々ができることは、演劇を通じて子ども達とコミュニケーションをとり合い、心を通わせる時間を、楽しい時間を、共有すること。今の子ども達を取り巻くこの閉鎖的な状況を打破していくお手伝いが少しでもできたらと思っております。

ART CAN CHANGE THE WORLD.

劇団ムジカ旗揚げ公演

協力隊着任当初から何度も実現を図ってきたものの、その度にコロナという荒波に阻まれ続けてきた劇団ムジカ旗揚げ公演…。2021/17,18,19をもってようやく旗揚げが実現！！
題材は2020年に没後400年を迎えた三浦按針。彼がオランダから佐志生に辿り着くまでの1年10か月の壮絶な航海と彼の生き様から、現代の悩める若い世代に向けて、生きるヒントを投げかける完全オリジナルの現代劇。

久家の大蔵にて、一日2公演を3日間行い、総計207名が来観（平均にして一公演35名程度）。コロナ禍でありながら、臼杵のまちを少しだけ賑わせた旗揚げとなった。しかし、本作は特に若い世代に観てもらいたいものだったが、宣伝が行き届いてなく、学生が15名と厳しい結果となった。

- 劇団ムジカは、臼杵を題材とした戯曲や小説、臼杵の歴史・人物等をモチーフとした完全オリジナル作品、世界中で起こっている様々な物事を扱い、舞台や朗読劇等によって表現する。
  - 臼杵の地で立ちあがった劇団が芸術というアプローチで世界中にメッセージを発信することで、臼杵のPRにも積極的に取り組む。
    - 『演劇で得られる“感動”は観た人間 の一つの“体験”となる。』を信念に、「観る」 というよりは「体験」させることに 意識をおき、質の高い演劇を身近に感じられる環境をつくる。

まとめ

協力隊2年目は、一年目に続きコロナの影響で企画が延期となることも多々ありましたが、企画を実行できた感触としては、ほぼ動けなかった一年目と比べると大きく違い、『やっと、できた…』という想いが強くあります。中でも劇団ムジカの旗揚げ公演は、一番実現したかった企画であり、今後、私の活動の中心となっていくものなので、感慨深いものがあります。

そして、それらの実現してきた企画の一つひとつが、私一人の力では決して形に出来なかったものであり、サポートしてくださった方々がいたからこそ、実現可能なものとなりました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。今後も、サポートしてくださる皆様へ、これからサポート、応援してくださる皆様へ、最高の芸術をもってお返しできるよう、頑張りたいと思います。

協力隊3年目も、コロナ禍での活動になるとは思いますが、
臼杵に演劇を根付かせるべく、
健康第一に、
積極的に、
情熱をもって、
活動していきたいと思います。

林　佑太郎